



巻頭言 議員・議会の専門性は？

私の議員活動も2期目に入り、ここで改めて**議会や議員の役割とは何なのか**ということを書いてみます。そもそも行政（市役所）と議員・議会の違いは何だと思いますか？

行政は多分野にわたる市民の暮らしに関する行政サービスを執り行います（執行権）。また市のお金の使い道を具体的に提案する権限は市長が持っています（予算提案権）。一方で、市長提案を承認するか否かを議会で議決する権利（議決権）を議員は有しており、このお金の使い道はおかしい、この行政判断はおかしいとチェックし、議会が認めなければ行政は予算執行ができません。それぐらい**議会の議決権は重たいもの**なのです。

行政と議会とが車の両輪のように機能を果たすことで市政が進んでいくと言われます。このような行政と議会との関係を二代表制と言って、行政のトップである市長も、議会を構成する議員も、それぞれ市民による選挙によって選ばれており、同格対等にある執行機関と議決機関のそれぞれを担うのです。

では**実際に議会・議員は、その役割を十分果たしているのでしょうか**。2つの例で示します。1つは行政の出す「広報あづみの」と議会が出す「議会だより」の広報紙。これを読み比べて違いが分かりますか？

単に行政のやったこと、やることを紹介するだけの似たり寄ったりの内容なら、それは議会としての役割を果たしているとは言えません。行政が出した議案を**議会でどのような議論をしたのか、どんな判断をしたのか**ということにこそ議会の専門性があるのです。議会だよりはそれが分かる内容になっているのでしょうか。私は広報委員会に所属しており、編集時にその視点を投げかけています。

もう1つは先頃行われた議会報告会。行政からこんな提案が出されたと言う報告だけならば、それは行政報告会であり、議会報告会ではありません。「行政がやろうとしていることは分かった。で、**議会はとうとうとしたのか？ どうしていくのか？**」この視点をもって議会を注目してみてください。そこに議会や議員としての「質のある」働きかけがあるでしょうか。

では「質のある」とはどういうことか。一般質問の傍聴に来られた方は分かると思いますが、行政側に現状や取り組みを聴くだけで、それ以上の突っ込みや提案がないまま、次の質問に行く議員も少なくありません。行政の答弁を聴いて、「分かりました。よろしくおねがいます。」と。これでは行政の施策発表会の引き立て役です。**突っ込んでナン**



みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。安曇野市政が市民のみなさんにとって身近なものになるように活動報告をお届けします。市政との虹（＝Rainbow レインボウ）の架け橋として頑張ります。望三郎の活動は市議ブログやフェイスブックでもどうぞ。→「増田望三郎」で検索。

ボ、提案してナンボ。それが議員の仕事

です。

議員は議会で提案する立場にありますが、それをやるための財源はどうするのか。財源がないなら、今ある施策の何を減らすのか、また減らす覚悟があるのか。毎回の定例会の提案が単なる思いつきでモノを言ってるのか、それとも根拠を持ち、市の現状を把握し、市民の声をしっかりと拾い上げ、先進事例を調べ、財源まで考えて言っているのか。そこにも**議員としての「質」**があるのです。

私は市民の声を代弁する際に、ただ伝達するだけでなく、そこに自分の考えや理想も足しこみ、それを自分の言葉で話し、議員とし

ての専門性を果たせる議員でありたいです。そのような議員が増えれば総体としての**議会が政策提案という機能を果たせるようになる**。そんな議会を作りたいと思っています。

安曇野まちづくりトークのご案内

前回より「安曇野まちづくりトーク」と題して、車座で市民のみなさんと議員がより近く、安曇野のまちづくりを話し合う場として再スタートしています。

参加議員は増田望三郎と小林純子議員の2名の予定です。どうぞご参加ください。

♪日時：7月22日（日）pm1:30～3:30

♪場所：豊科学習交流センターきぼう（2階）

サポーターからの応援メッセージその17



こ だかなお き
小高直樹さん（豊科、プログラミング教室運営）

望さんとの出会いは8年前の夏。まだ私が東京で暮らしていて、初めて安曇野に旅行に来た時でした。3年後に安曇野に移住してきて、その年に安曇野市議選に望さんはチャレンジしました。移住直後でしたが、選挙のお手伝いをして政治を初めて身近に感じたことを覚えています。

実際に議会を傍聴に行ったり、望さんの議員活動を第三者として評価させてもらったり、また教育という分野で望さんとこれからの話をさせてもらったり、そして望さん自らの発信を通して、望さんの活動から政治や議会について知り、考えるきっかけをもらいました。

最初のチャレンジから5年、望さんは二期目に入って、益々自分の目指す政治の在り方の実現に向けて動いていこうとしています。今だけを見るのではなく、未来の子どもたちが誇りを持てる安曇野になっていくように、自分の信念に従って政治の道を進んでもらいたい、常にチャレンジしていく姿を見せて欲しいと思っています。これからも望さんを応援します。そして私も安曇野が大好きな市民の一人として、望さんの議員活動をしっかりと見つつ、望さんに任せるだけでなく、よりよい安曇野を共に創っていきたいと考えています。

《質問 1》 活力を生み出す 空家の利活用を

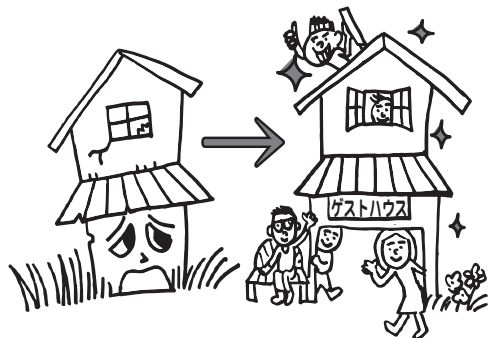
【解説】 少子高齢化、人口減少が進む中、空家は大きな社会問題です。使用可能な空家は社会の大切な資産と捉え、有効な対策が必要です。今回の一般質問では地域のコミュニティ機能維持と活力を生み出す空家の利活用をテーマに具体的提案をしました。

望市議 空家の利活用について総体的な考え方と既存の施策は。

行政 空家の実態調査をし、利活用可能な物件は情報提供について本人の同意をいただく。また空家バンクへの登録を誘導し、住宅支援も検討しながら、賃貸や売買の活性化につなげていく。

望市議 拠点集約されない市の面積の大部分を占める田園環境区域に増えていく空家やコミュニティ維持にどう対応するのか。

行政 地域コミュニティの維持の観点から、空家は併用住宅のような活用が望ましい。農家民泊等は、その地域の必要性や空家活用できるならば、弾力的な方法があるのか精査し、方策を講じなければならない。



望市議 空家を活用したスモールソーシャルビジネス (SSB) の提案をする。SSB とは、空家を活用して、小さな投資 (small) で、地域社会とつながる生業 (socaill business) を起こし、地域の魅力を高め、コミュニティの活力を生み出すというもの。肝腎なのは空

家を活用すること。民家に暮らしながらの生業は、地域とのつながりが生まれ、地域に根差し、コミュニティの維持にもつながる。このような空家活用の方策はどうか。

行政 暮らしながら生業を起こし、地域社会に溶け込んでいけば、活性化にもつながる。そういった空家利活用を促進できればいい。

望市議 SSB の目玉として農家民泊が有効。田園環境にある空家を活用した農業体験のできる宿泊施設、この農家民宿こそ、まちづくりの基盤に農がある安曇野の特性を発揮できる生業と言える。また海外からのインバウンドの波が本市にも確実に来る。彼らが求めるのは体験である。安曇野の特色を発揮できる農泊事業を行う体制を整備してほしい。観光庁が定めた観光立国推進計画では、体験宿泊を 500 地域でビジネス展開するとある。農業・農家体験等、人的交流ができる心のふるさと安曇野として手を挙げてはどうか。

行政 空家を農泊に活用しビジネス展開できれば、安曇野らしい魅力ある観光地域が形成されるし、空家対策にもつながる。しかしインバウンドや一般旅行者といったニーズに幅広く対応できる農泊を推進するには、農家や地域の受け入れ機運の醸成とともに、ビジネス展開できる企業・団体の確保が必要になる。今後研究をしていく。

望市議 SSB は多様な業種があった方がいい。多様さが地域に様々なつながりや展開を生み出す。既にある事例は地域に新しい風を吹き込み活力を生んでいる。多様な空家利活用を行政がどうサポートするのか。新しい施策の制度設計では空家活用に特化した創業支援を組み込み、SSB を後押ししてはどうか。

行政 空家利活用の促進は市の重要な政策の一つ。現在の補助制度を検証し、空家を利用した創業という観点から補助制度が創設できないか研究する。

●空家を活用した SSB の一例

保育施設、ゲストハウス、カフェ、農家民宿、フリースクール、シェアハウス、福祉施設等【まとめ】SSB で自分らしく生きる人が増え、その取り組みを発信することで移住者も増えます。一人一人が輝いて生きられる多様性のある安曇野のまちづくりを提案します。

《質問 2》原告団 150 名の控訴を 市長はどう受け止めるのか

【解説】 長年地域住民が窮状を訴えてきた三郷小倉にある民間の廃棄物処理施設問題。本年 3 月に処理業の許可取消しを求めた行政裁判の判決が出ました。原告である住民は判決を不服とし東京高裁に控訴しました。



望市議 150 人もの住民が控訴人になったことを、市長はどのように受けとめているか。

行政 何とも申し上げることはできない。市民の皆さんから裁判で市が訴えられたことは大変残念で不幸な結果だ。

望市議 市長は自治体のリーダーとして市民の生活を守るべき立場。その立場からも 150 人の控訴人の思いを受けとめられないか。

行政 法令にのっとって廃棄物が安全かつ適正に処理されるように、監督庁としての責務を果たすために指導、監督を継続する。

【まとめ】 故郷を先人から引き継いだように、次の世代が安心して暮らし、農業ができるように、この環境を守りたい。地域住民の方々はそう心底から思えるからこそ、ここまで反対運動や裁判活動を続けてこれたのです。今後も市民のみなさんと共に活動を続けます。

望三郎市議が行く!! 第 7 話 「公共施設の再配置計画」 出演: 望さんにじと、ピース

